



平成21年4月3日

各位

上場会社名 株式会社 アイケイコーポレーション  
 代表者 代表取締役社長 加藤義博  
 (コード番号 3377)  
 問合せ先責任者 取締役 総合管理本部管掌 山縣俊  
 (TEL 03-6803-8855)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年10月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年8月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年9月1日～平成21年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,122	462	480	225	1,477.82
今回発表予想(B)	10,756	△120	△92	△113	△742.83
増減額(B-A)	△1,366	△582	△573	△339	
増減率(%)	△11.3	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年8月期第2四半期)	10,980	523	539	△123	△809.08

平成21年8月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年9月1日～平成21年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	27,408	2,128	2,166	1,122	7,352.04
今回発表予想(B)	24,158	1,198	1,243	628	4,108.48
増減額(B-A)	△3,250	△930	△923	△494	
増減率(%)	△11.9	△43.7	△42.6	△44.0	
(ご参考)前期実績 (平成20年8月期)	24,588	1,864	1,904	847	5,555.13

平成21年8月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年9月1日～平成21年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	11,949	477	492	241	1,582.82
今回発表予想(B)	10,592	△92	△79	△105	△688.03
増減額(B-A)	△1,356	△570	△571	△346	
増減率(%)	△11.4	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年8月期第2四半期)	10,618	747	756	△317	△2,080.74

平成21年8月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年9月1日～平成21年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	27,006	2,131	2,166	1,126	7,382.47
今回発表予想(B)	23,771	1,213	1,242	621	4,068.44
増減額(B-A)	△3,235	△917	△924	△504	
増減率(%)	△12.0	△43.1	△42.7	△44.8	
(ご参考)前期実績 (平成20年8月期)	23,925	2,182	2,202	678	4,447.19

修正の理由

(1)第2四半期連結累計期間業績予想の修正理由

世界的な景気後退・円高にともない、当社グループの主たる販売先(出品先)であるオートバイオークション市場も輸出業者の買い控えによる、著しい相場下落が見られました。

これにより、当社グループにおいても平均売上単価(一台あたりの売上高)ならびに平均粗利額(一台あたりの粗利額)が低下いたしました。

かかる状況の下、当社グループは平均粗利額を確保する施策として、オークション相場下落に対応した買取価格の見

直しを図りましたが、結果として、買取成約率(※)の一時的な下落を招き、予想販売台数未達の一因につながりました。  
上記施策は、当第2四半期連結累計期間の後半になって、ようやく効果の兆しが見えてまいりましたが、売上高、営業利益につきましては前回予想を下回る見込みです。

経常利益および四半期純利益につきましては、営業利益の減少にともない前回予想を下回る見込みです。

※買取成約率:出張査定時においてオートバイの査定金額をオートバイユーザーに提示した際に取引成約に至る割合。

## (2)平成21年8月期通期業績予想の修正理由

売上高につきましては、当第2四半期連結累計期間業績予想の修正に加え、第3四半期以降の見通しを修正した結果、前回予想を下回る見込みです。

平均売上単価につきましては、オークション相場が平成21年1月以降、下げ止まる傾向にあります。当社グループは、第3四半期以降における相場の回復を織り込まず、現水準に季節変動を加味した修正をしております。

販売台数につきましては、広告宣伝施策の改善に効果が認められるため、施策継続による買取申込件数の順調な推移を見込む反面、買取成約率は足元のトレンドを踏襲することから、これらに基づいた修正をしております。

営業利益につきましては、当第2四半期連結累計期間業績予想の修正に加え、第3四半期以降の見通しを修正した結果、前回予想を下回る見込みです。

平均粗利額につきましては、オークション相場下落に対応した買取価格の見直し施策の結果、一時前年同月比85%程度まで下落した指標が97%程度まで回復しているものの、第3四半期以降においてもオークション市場の低迷の影響は残ると推測することから、これらを踏まえた修正をしております。

なお、販売費及び一般管理費については、当第2四半期連結累計期間におけるコスト削減の傾向を鑑み修正しております。

経常利益および当期純利益につきましては、営業利益の減少にともない前回予想を下回る見込みです。

なお、業績・事業計画等を総合的に勘案し、安定的な配当を実施していくという配当方針に変更はなく、今回の業績予想の修正にともなう配当予想の変更はありません。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因にかかわる本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上